

# えがおあふれる世界へ



井原市・井原小3年 竹内 煌瑛

せんそうをしている国では、せんそうのために生まれ育った場所をはなれ、ちがう国へうつる人がたくさんいるということを知りました。せんそうというきけんからのがれるために、家や大切なものをおいて、家族と安全な国を目指してにげるのだそうです。その人たちのことを考えると、とてもくやししく、さみしい気持ちになりました。

先日、フランスが「イスラム国」にねらわれてやく百三十人が死ぼうとしてしまい、三百人以上がけがをしてしまったという事けんがありました。ぼくはそのことを知り、とてもこわく感じました。いろいろな考え方のちがいがあっても、ころし合いはぜったいにやってはいけないことです。何よりも本当にかわいそうなのは、その国に住んでいる人たちだと思いました。

ぼくたちの住んでいる日本も、昔はせんそうで多くの人がなくなつたそうですが、こんなつらくて悲しいせんそうは二度とほしくないと思います。今ではせんそうのない平和な国になっています。ぼくたちは、たまにはけんかもするけれど、相手を思いやる気持ちと「ごめんね。」の一言で、すぐになか直りをして毎日楽しくえがおでくらしています。ぼくは、そんな日本が大好きです。

ぼくたちの国のように、せんそうをしている国の人たちにも、自分の国がすきになれる、平和でえがおあふれる幸せな国になってほしいです。ぼくにせんそうをなくす力はないけれど、ぼく自身がえがおでいければ、まわりの人もえがおになると思います。明るく幸せな国への第一歩となるように、まずは、ぼくが、どんなときでもえがおでいようと思います。

## ニュース ポン ひざ

### ヨーロッパの難民問題

## 戦争逃れ安全な国目指す



シリアなど中東から、たくさんの難民がヨーロッパの国々に移動しています。自分の住んでいる国で戦争が起きていて、危険から逃れるため、家や大切なものを置いて家族らと安全な国を目指して逃げているのです。  
お金をたくさん払ってボートに乗せてもらい、地中海をギリシャまで渡ったり、何日も歩いたりして、ようやく目的の国にたどり着いています。  
ただ、受け入れを求めている人の多すぎて、各国は対応に困っています。昨年、地中海を渡ってヨーロッパに入った難民は約22万人、今年はずでに35万人を超え、これからも増えそうです。自分の国に入ってくるのを止めるため、国境にフェンスをつけた国もあります。  
ヨーロッパの28カ国でつくる欧州連合（EU）は、それぞれの国の人口や経済力に応じて分担して、難民を受け入れること

ヨーロッパに向かう難民の動き  
スウェーデン、ドイツ、クロアチア、ハンガリー、セルビア、マケドニア、オーストリア、イタリア、ギリシャ、トルコ、シリア、地中海  
難民を乗せて地中海をわたろうとした船（イタリア海軍提供・AP）  
受け入れ国を目指して陸路を歩く難民の子どもら  
移動の途中、ボートが沈んでしまった人もたくさんいます。亡くなった3歳のシリア人の男の子が、トルコの海岸に流れ着いた写真に、世界中の人々が胸を痛めました。  
多くの人が、ドイツやスウェーデンなど、難民を受け入れて、権利を認めてくれる豊かな国で生活したいと思っています。  
EUはそれぞれの国がどのくらい受け入れるかについて、話し合いを続けていますが「戦争が終わらなければ、受け入れる問題の解決にならない」という意見もあり、対応が求められています。  
（鈴木理紗・共同通信外部記者）

2015年10月4日付 山陽新聞さん太タイムズ

欧州の難民問題を身近な問題としてとらえ、平和の大切さについて考えたことを素直につづ

### 寸評

りました。「ひとごと」で済ませたくないという強い気持ちが伝わってきます。